

2014年度(平成26年度)事業報告

組織運営に関する事項

(1)理事会・評議員会の開催

○第1回評議員会	6/23	中京青少年活動センター
○第1回理事会	6/9	中京青少年活動センター
○第2回理事会	6/23	中京青少年活動センター
○第3回理事会	11/11	中京青少年活動センター
○第4回理事会	3/17	中京青少年活動センター

(2)人事交流

(公財)京都市国際交流協会と3年目の人事交流となるが、諸事情により1年間出向を休止した。

(3)KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

- 確認審査の際に審査員から、「職員の環境意識の充実はできているので、利用者や市民に向けた啓発に力を入れてほしい。」と指摘を受けたので、KES担当者会議で協議し、12月から各センターでFacebookやロビー掲示などによる外部発信に取り組んでいる。

I. 自主事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。主な取り組み内容は、若者の市民参加促進の事業，“若者に届く”情報発信，戦略的な広報，それらの課題を追求するための調査研究及び組織マネジメントの仕事である。

1. 情報発信事業

「青少年が地域活動に参加していくための機会づくり」を目的として下記の取り組みを実施した。

①社会参加情報の提供「ボランティアニュース」の発行

- 主に10代をターゲットにボランティア情報を提供した。年1回3月末発行，5000部。
- 補助金の関係により，ボランティアニュース単独のWEB作成は中止となった。(10代後半～20代をターゲットに当初予定。)ユースアクションプランイベントガイドWEBのボランティア情報との連動を行った。
・情報提供数25件。情報提供団体14団体(新規7団体)。

②高校生がメディアを使って意見表明する機会の提供「the keys !」の発行

- 高校生年代が想いをカタチにし主体的に発信する情報誌づくりの場として実施。高校生年代の若者が，24号作成に向け企画・取材・原稿作成・編集等を行った。グループとしての活動が継続されず発行に至らなかった。(2014年度をもって休刊とする。)

③青少年団体，青少年の支援に関わる団体との交流・情報交換会の開催

- 各団体の「危険ドラッグについて」の研修と，相互の交流を図るための場として実施した。2/22実施。若者サポーターも研修に参加した。

④青少年活動センター登録グループの情報の受発信

- センター登録グループ，青少年育成団体の情報をウェブサイトに予約電子化システムと連動させて公開開始した。
- グループ登録共通化を実施し，輝く学生応援プロジェクト「学生PLACE+」と施設情報について共同アピールを行った。

2. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業。地域参加，青少年活動センター運営への参画を進める取り組みを実施した。

①市政参加・まちづくりのための取組

- 「しもせいフェスタ」(下京センター担当:後記)での若者の地域参加プログラムを実施した。

②「スタートライン」社会課題について主体的に取り組むグループ支援

- 学習支援団体Apolonと夏季・冬季に中高生の宿題サポート企画をサポート。
- CLUB ATTRACTIONの活動紹介の機会として，文化博物館及び高辻地域の町内会とマッチング。企画実施をサポートした。

③高校生のまちづくり活動体験「ユースACTプログラム」への参画

- シチズンシップ共育企画が主催で行いユースサービス協会は共催事業として実施。
2014年8月～2015年3月の期間でプログラムを実施した。高校生6名。活動報告会:2/28には神戸など他府県からも聴講者あり。

3. 青少年関係団体のネットワーク形成事業

①青少年グループ・育成団体・NPO事業への共催・後援

- チャイルドライン(子ども電話)事業に共催(NPO法人チャイルドライン京都が運営)した。
- 青少年育成関係団体の主催する事業に共催した。(一覧別紙)
- 京都市の「輝く学生応援プロジェクト」事業で設置された「学生PLACE+」運営に参画した。
*ユースビジョン及びきょうとNPOセンターと共同運営を行った。
- 青少年グループ，希少ニーズにかかわる活動グループ，育成団体の事業に共催，協力した。

<共催事業>

事業名	主催
声優養成講座	NPO法人 キンダーフィルムフェスト・きょうと
ユースACTプログラム	シチズンシップ共育企画
チャイルドライン京都	NPO法人 チャイルドライン京都
グループそのまま 京都BASIC	グループそのまま
第33回 障害児の生活教育全国研究集会	寄宿舎教育研究会
♪あんだんて♪11周年記念不登校経験者シンポジウム	親子支援ネットワーク♪あんだんて♪
かものはしプロジェクト 講演会	御池ワールドミュージック事務局
NPO・ボランティア活動ガイダンス	NPO法人きょうとNPOセンター
日本シチズンシップ教育フォーラム	日本シチズンシップ教育フォーラム
レクリエーション・インストラクター養成講習会	日本レクリエーション協会
下京歩歩(ぽっぽ)塾	下京歩歩塾運営委員会
子育てサロン「わんわんキッズ」	わんわんキッズ運営委員会
Dance school 「Swish Kid's」	MIHOダンスファクトリー
しもせいバレーボールリーグ	しもせいバレーボール Sリーグ運営委員会
みどり市～老若男女ハッピーフェス～	みどり市実行委員会
Enjoy Double Dutch	京都府ダブルダッチ協会
龍谷大学附属平安高等学校 夏の福祉体験	龍谷大学附属平安中学高等学校
日本語教室 たちばな倶楽部	京都橘大学 日本語教員養成課程(大学生)
めくるめく紙芝居	京都橘大学 大学生
地域活動ボランティア あそび隊	あそび隊
やましなふれあい手話初心者講座	京都市山科区社会福祉協議会
ひとり親家庭などの子の居場所づくり事業	京都市母子寡婦福祉連合会
Bboy Onton Workshop from Supernaturalz	青少年活動センターグループ

<後援事業>

事業名	主催
第34回 全国ろう学生の集い	第34回全国ろう学生の集い実行委員会
第3回AIDS文化フォーラムin京都	AIDS文化フォーラム in 京都運営委員会
京都やんちゃフェスタ2014	京都市保健福祉局 子育て支援部児童家庭課
関西学生就活サミット～立場を超えて語り合おう～	公益社団法人京都勤労者学園(ラポール学園) NPO法人 あったかサポート
青年海外協力隊募集説明会及び『世界の果ての通学路上映会』	独立行政法人 国際協力機構 関西国際センター

※特定非営利活動法人についてはNPO法人と表記している。

<協力事業>

事業名	主催
摂食障害の当事者グループ活動	かなりあ京都
「こころのサポート事業(地域理解促進活動)講演会」	NPO法人「若者と家族のライフプランを考える会」
京都アートフリーマーケット2014秋/2015春	京都アートフリーマーケット実行委員会
アカペラサークルnico サークルライブプレイライブ	アカペラサークルnico
親と子がともに育む「下京つながりフェスタ」	下京子育てつながろう実行委員会

②広報誌『ユースサービス』の編集・発行

○第19号から第21号を年3回各3,000部発行。関係団体や個人、学校・大学公共施設及び、厚生労働省、内閣府他の全国の関係機関に配布した。

- * 第19号/8月 特集「新たな事業展開に向かって」
- * 第20号/12月 特集「ユースシンポジウム2014～動き出す、わたしのワカモノガタリ」
- * 第21号/4月 特集「CSRに見る若者の仕事観～期待される企業の活動～」

③関係行政機関・関係団体への協力(協力事業)

協会のもっている“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。それによる対価は事業収入として確保した。

- 震災・支援活動のネットワーク・情報交換, 援助活動に協力/特に要請がなく, 実施無し。
- 外部機関・施設などへの委員等として参画・協力した。
 - * 京都市社会福祉協議会(評議員)
 - * 京都市青少年活動推進協議会(委員/専門委員)
 - * 環境保全活動協会戦略小委(委員)
 - * 京都市児童生徒登校支援連携協議会委員
 - * 京都市多文化施策審議会(委員)
 - * 新しい定時制高校創設アドバイザー会議(委員)
 - * 京都子ども子育て会議(特別委員)
 - * 京都子どもを共に育む市民憲章推進委(委員)
 - * 京都市HIV感染症対策協議会(委員)
 - * 京都市児童館学童連盟(理事)
 - * 京都府レクリエーション協会評議員
 - * 京都府21世紀委員会(幹事/副幹事長/行政区ネットワーク委世話役他)
- 「AIDS文化フォーラムinきょうと」実行委員会への参画

実行委員会に参加するとともに、開催当日(10/4-5)に「若者の性と生を考える」ワークショップを企画運営した。
- 「京都アートフリーマーケット」への協力・共催
 - * 若手造形家・活動者の作品の展示販売に協力し特別会場を設置した(9/19-21, 3/20-22)。
 - * 青少年グループや育成登録団体, 福祉団体が出展する広報ブースなどを設けた。
- 全国若者支援ネットワーク機構への加盟・協力

若者支援に関わる団体の全国ネットワークに協力し, 理事を派遣した。
- 外部機関・施設などからの依頼に応じて, 企画提供や講師派遣などの協力を行った(主なもの)。

市立学校教員選考試験(8/23・24:民間面接員)
全国ボランティアコーディネーター研究集会(2/28:事例発表者)
トークイベント「子どもの貧困対策アクション大解剖&これからの展開」(3/29:トークゲスト)
日独青少年指導者セミナー事前研修会(9/6:講師)
配偶者等からの暴力に関するネットワーク京都会議(8/15:話題提供者)
ガクシン デートDVに関する座談会(10/28:アドバイザー)
北九州市市民カレッジ(12/1:講師)
福井高校人権ホームルーム「自分の生き方, いろいろな生き方」(11/20:グループファシリテーター)
ユースプラザこうべWEST運営ボランティア研修(4/19:講師)
東信子ども・若者サポートネット研修会(8/20:講師)
NPO法人TEDIC 学生スタッフ研修(8月・2月:講師)
不登校フォーラム(11/12:分科会講師)
京都市発達障害者支援センターかがやき 職員研修(3/12:講師)
京都教育大学 社会教育論 学外研修(5/16)
京都府南部地域まちづくりミーティング(2/18:話題提供)
中京区中学校PTA研修会(1/19:話題提供者)

- 少年非行の減少や軽減につながる取組での連携

スクールサポーターの活動に協力する(センターを使って少年との面談及び学習指導)とともに, 非行少年の立ち直り支援活動の場を提供した(北センター:地域清掃)。
- 大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講(立命館大学と共同)した。

④ユーススクエア高辻(元格致小学校)の運営

- 元格致小学校校舎(3F)の利用は必要最小限での活用とし, 引き続き, 地元の夏祭り(「格致まつり」等)に協力した。また, 新たに地域参画を目的とするセンター利用グループと地元自治会とをつなげ, 青少年が地元行事に参画する場を提供した。

4. 事業企画・運営体制の充実

①企画委員会の運営

協会の新たな事業課題への取り組みの在り方について、現場ワーカーも含めて検討・試行した。

○「若者と雇用」タスク

“就労に不安をかかえる若者”について、社会貢献型の就労支援プログラム(独居高齢世帯への配食と見守り支援)を立案、実施した。また、関連機関とともに成果と課題の検討を行った。

○「10代の若者を巡る課題検討」タスク

高校等の中退予防を念頭におきながら、東山・山科・下京等いくつかのセンターで高校生向けの事業展開の試行と課題の検討を行った。また、サポートステーションが取り組む高校訪問の経験の共有を行い、アウトリーチ事業の可能性を検討した。

<委員会の開催日程・活動日程>

月 日	内 容	検討事項・作業詳細
2014. 5. 20	委員会	タスクチーム報告/今後の委員会の進め方について検討
2014. 11. 7	委員会	タスクチーム報告
年間	タスクチーム	ミーティング及びリサーチをタスク毎に進めた。

<企画委員一覧>

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部准教授	知名 純子	まるいクリニック医務部長/PSW
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	村田 博信	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
谷口 肇	京都刑務所法務教官	幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所代表
石山 裕菜	同志社大学院生(博士課程)(2013年8月から)		

①スーパーバイザーの委嘱

○現場スタッフを支え、業務の質的な向上をはかるためにスーパーバイザー(山本智也氏:京都ノートルダム女子大)を委嘱し、年間を通してコンサルテーションが受けられる体制を作った。(13回実施)

②事業評価の実施

○2012年度に整理した評価サイクルに即して、年間を通じた事業の評価を実施した。

※外部関係者も含めた評価ヒヤリングを行い全事業所事業を評価(1/11)。次年度事業計画立案につなげた。

③寄附・協賛獲得プロジェクト自主財源の拡充

○寄附募集のためのホームページ、パンフレットを作成。また、安保理事長就任披露パーティーを開催し、出席者に寄附の協力を呼びかけた。

○広報プロジェクトの協力のもと、yahoo!JAPAN が提供するサービス「Links for good」を活用して、インターネット上に寄附募集ホームページの広告掲載を行った。

④「中間的就労」の場づくり(自立支援につながる新たな取り組みの試行)

○若者サポートステーション、青少年活動センターが共同して、「野菜づくりから仕事に近づく」を継続実施した。

○企業との協力・連携による中間就労の場づくりを模索したが、企業側の考える若者へのニーズと、こちらが考えるねらいが合致せず、具体化には進めなかった。プロジェクトとしても仕切り直しをする予定。

⑤予約・台帳の電子化

○予約電子化については、全センターにおいて仮運用をスタートさせた。下京の移転に伴うシステム等の修正、変更もあり、本格運用には至らなかった。

5. 調査・研究事業

① ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

○アカデミックベース強化、資格制度作りに向けた研究協議を継続して行った。

定例的に実践者からのテーマに即したレポートを受けて議論する研究会を開催した(3回実施)。

*共同研究メンバー

(立命側)野田正人氏・荒木 寿友氏・小西 浩嗣氏・中村 正氏

(協会側)遠藤前理事長・水野・大場・横江・竹田・米田

*公開研究会を開催(「若者の仕事を巡る現実と生き方」講師:湯浅 誠氏(法政大学)。(8/30)

○ユースワーカー養成の在り方の検討

*外部研究者の研究チーム(以下)に参画しワーカー養成の在り方についての研究を進めた。

*テキスト作成は次年度に継続。

② ユースワーカー養成プログラムの実施

○大学院(応用人間科学研究科)でワーカー養成コースを共同運営した。

(概論)16人受講/(演習)10人受講

(実習)10人がセンター及びサポステで3~5ヶ月の実習を行った。

○ユースワーカー資格取得プログラムの実施(別掲=受託事業で実施)

③ 外部機関・研究者との共同研究

他都市での実践や専門職養成についての調査・研究に加わり、ユースワークについての検討を進めた。

○「子ども若者支援政策とSocial Pedagogy」研究調査(代表:法政大平塚教授)に参画(研究協力)した。

*キックオフセミナー「若者支援・ユースワークの仕事をつくる」セミナーに参加。日本の若者支援実践と政策の状況を共有・討議した。(法政大学:6/21)

*フィンランドのワーカーを招いた、「欧州のユースワーカーと学び合うセミナー」を京都で開催した。(他札幌・相模原でも開催:12/13-14)

○子ども若者支援専門職員養成研究への協力

*奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画(研究協力者)した。「子ども若者支援士(仮称)」養成に向けた調査・検討に参画した。

*横浜・札幌の財団との相互事業評価及び職員の専門性についてのヒアリングを実施した(現在調査報告を取りまとめ中)。

○子どもの貧困とコンピテンシー開発を巡る研究の成果発表に関連して、公刊本に複数のワーカーが執筆の機会を得た。

*『ノンエリートのためのキャリア教育論』

*『不利/困難を抱えた子ども・若者と支援サービス(仮題)』(いずれも居神 浩編著)

④ 職員研修の計画・実施

○職員研修の計画・実施

○研修プロジェクトを運営し年間研究計画に沿った研修を実施した。今後の組織基盤強化に向けて計画的な人材養成に向けた取組を進めた。

*新人職員研修(①職員・ワーカーとしての基礎 ②現場での実践記録を作成しSVを受ける)

*若手職員研修(ワーカーとしての基盤となるスキルについて研修を実施)

*外部派遣研修(取扱いについて見直し及び整理の実施)

○子ども若者育成支援推進法関連業に対応した取り組みのための職員研修を進めた。

○職員による事例研究会を定例開催した(年間10回)。

○全職員が参加する「全体研修会」を実施した(5/14)。

II. 協会受託事業

協会事務局と中京青少年活動センターを一体的に運営し、7ヶ所のセンターの中核的な機能を果たした。子ども若者支援室・若者サポートステーションと連携を図りながら、成長への機会提供及び課題を持つ青少年への包括的な支援を目指し、中京センターは施設特性を生かした事業に取り組むとともに、センター間連携に関わる事業の調整・実行管理を事務局と一体的に行った。

1. 青少年の交流促進事業(青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくりの事業)

①ユースシンポジウム「動き出す、わたしのワカモノガタリ」の開催

○昨年度好評を得た「対話型」を重視し、若者一人ひとりが自らを語り、この場を機に動き出せるよう、多様な価値や取り組みに出会える場として実施。参加者数189名。参加協力団体22団体。

*第1部:全体会「わたしにとってのコミュニティ～見つけよう！私の大切な場所(もの)～」

*第2部:「豊かさ」をキーワードにした対話型ブース、セミナー「若者が語る わたしの働きマインド」

*第3部:交流会(自由参加)

②音楽とダンスの祭典「ライブキッズ」の開催

○今年度は、例年の規模を縮小して、3月8日(日)に新風館にて開催した。DANCEチーム、アコースティックバージョンのMUSICアーティストの発表の場とした。

○青少年活動センター紹介及び寄附・物販ブース、出演者物販・告知ブース、保健センターの協力によるセクシュアルヘルスブース出展を行った。(寄附金4,058円)

○出演者243名(DANCE:27チーム、MUSIC:8組)、来場者延べ500名

○準備期間も1か月半程度しかない中、スタッフが主体的に運営、当日に向けた準備・練習、プログラムの作成デザインなどを行った。(ボランティア登録数:17人)

○再来年度完成に向けた報告書作成については、構成・素材集め、関係者ヒアリングを行った。

2. 担い手育成に関わる事業(指導者養成事業)

青少年活動センターで活動するボランティアスタッフや、利用グループのリーダーなどを対象とした研修、地域において若者の成長支援を担う専門スタッフ養成のためのユースワーカー養成を行った。

①ユースワーカー養成・資格認定事業

○養成講習(8月及び3月)、資格取得コースの第11期・第12期を実施した。

②インターンシップ/各種実習の受入れ

○京都女子大学『社会教育実習』受入れ(北センター3人・中京センター1人・山科センター1人・南センター1人)

○京都女子大学『社会教育基礎実習』受入れ(東山センター6人)

○立命館大学全学インターンシップ生受入れ 南:1名(中止)

○京都女子大学インターンシップ(伏見・中京・東山・南センター:各1名、下京・山科センター 各2名)

○大学コンソーシアム京都(中京センター1名、南センター2名)

○京都橘大学(山科センター2名、伏見センター1名)

○立命館大学ユースワーク実習

(サポステ1名、北センター2名、中京+東山センター1名、山科センター3名、下京・南・伏見センター各1名)

3. 相談・情報提供・支援事業

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を青少年活動センター内に設置しており、ニート、ひきこもり、不登校等、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。若者に特有な課題・話題に特化するよりも、センターを利用している若者と気軽に話す関係づくり、日常的な関わりからうまれる相談に対応した。

①総合相談窓口の充実(支援事業と一体的に運営＝別途記載)

②相談事業の全体調整・体制の強化

○各センターに「支援連携担当」置き、支援室、若者サポートステーション他との連携を強化した。

③若者を巡る社会課題に対応した取組の実施(セクシュアルヘルス関連事業)

○各センターにおいて、保健センターや地域団体と協力して事業を実施したほか、センター横断型の事業と

して、ボランティア対象の研修会、ライブキッズ、高校への出張事業等に取り組んだ。また、事業担当者会を実施し、情報交換のほか、今後の取り組みにむけた意見交換を行った。

4. 広報事業

① 広報戦略の検討・開発(広報戦略プロジェクトの運営)

○社会的認知を高めるための広報戦略をプロジェクトチームにより検討・実施した。

- * 全事業所に広報計画の策定を課し、月次報告を求めるとともに、事業所対抗の広報コンペを実施。
- * 協会の活動を広く支援者に理解してもらうためのブローチャーの作成
- * 広報先データベースの更新。(新規広報先の開拓、データ収集、整理)

② インターネットの活用とホームページの改善

○以前からのSNSを活用した広報の強化に加え、今年度は新たに寄附・協賛獲得プロジェクトと協働して、WEBを活用した協会の認知向上や寄附獲得について研究を進め、一部試行した。

- * 各事業所のホームページの閲覧分析結果を月初に定期配信。
- * 「WEB・広報担当&初任者研修」の開催。
- * YAHOO JAPAN の公益活動支援事業「Links for Good」を活用した広報の試行。

5. みさやまグローバル事業

若者を巡る課題を広い視野で考えながら京都という街を意識した取組を実施した。

① あたりまえじゃない生き方実践講座

今年度は、企画者募集を行ったが趣旨とマッチせず実施には至らなかった。「少女マンガ家とダブルワーク」の1回のみ実施。新規の参加者が大半であった。

② こころみプロジェクト「みさやまワークショップ」パイロット事業

あたりまえじゃない生き方実践講座の中で若者文化についての調査として位置づけ実施。

③ 若者とライフデザイン

7センターで特に先駆的な視点を取り上げ、アンテナショップ的に事業を展開実施していく。昨年度今年度は「メディアリテラシー」をテーマとして取り上げ、下京センターにて段階的にテーマを深めていく形で企画、第1フェーズとして下京センターにて「メディアを活用した表現力を伸ばす講座」を実施したが、今年度は未実施。

6. 居場所づくり支援に取り組む

① 「街中コミュニティ」の実施

○不登校、ひきこもり、対人関係に不安があるなど、課題をかかえる青少年を対象に、自他と向き合い、互いに交流できる居場所、コミュニティ形成の場を提供した。子ども・若者支援室、サポステからのリファーマを受け入れ、常時担当者情報交換をしながら進めることで、グループ体験の場を活かして使ってもらえるよう連携を図った。(居場所の段階別機能1・6)

* 毎月2回(第2・第4金曜)開催。実習生の協力を得て実施した。

② ロビーをつながりのある、居心地の良い空間にする。(ロビー空間を使った交流プログラム)

○「赤れんがCafe」を中心とした地域若者サポーターの活用

7月から3月までロビー利用者同士の交流の場を実施。(サポーター7名、参加者数151名)

○「あったCafe(カフェ)」の開催

2回利用者との交流の機会として実施。インターン生が関わり運営。チャレンジの機会ともなった。

○「掲示板企画」

ボランティアの協力や職場体験の受入れを得て実施。毎回テーマをもって利用グループメンバーやロビー利用者、自習利用の若者などが交流できる場を作った。また、笹の寄付を受け七夕の飾りつけ等も実施。

○「参考書寄附求む」

300冊近い寄附を得ることができた。ロビー等での貸し出し、中3学習会での活用につなげるとともに、自習室利用者向けにPRし、持ち帰ってもらった。

○「何でも質問BOX」の設置

日頃疑問に思っていることや悩んでいることを対面ではなく質問用紙に記入し、投函してもらう匿名相談を実施した。軽いテーマから性や恋愛、友達付き合い、進路などに関わる悩みの吐露まで幅広い“質問”があった。

7. 地域交流・連携・参画事業

○継続的な地域活動としての取り組み

人づくり・21世紀委員会(中京ネットワーク実行委)中京ふれあいまつり, 中京ふれあいトーク

○区内中学の「生き方探究チャレンジ事業」インターン受入れ

光華中学校生徒2名受入れ。

○育成委員会を再編し総会を開催した。(9/13)

○中京「中3学習支援事業」(かけはし)

経済的問題を抱えた家庭で育つ中京区・上京区・下京区の中学生を対象に, 学習会「かけはし」を実施した。

学習支援団体Apolonの協力を得て開催した。

○青少年の非行対策及び健全育成のため, 京都市少年補導委員会に事業委託を行った。

8. 利用促進・「居心地の良い」施設提供のための取り組み

①トレーニングジム関連

○ボランティアコーチ(アドバイザー)を配置し, トレーニングジムの安全な利用のためにガイダンスを実施した

○ジムの運営及びガイダンスの実施

*トレーニングジム利用者を対象に, ジムの安全利用を目的としたガイダンスを行った。(月2回)

*ガイダンスの実技指導はボランティアコーチ(登録5人)の協力を得た。

②利用しやすい“入り口”となるスポーツ事業(ヨガなど=自主事業)の実施

○ヨガ, ヒップホップの2教室(年間4クール, 各10回~11回)を実施した。

行事一覧(自主事業及び中京センター事業)

事業分野	事業名	日程	回数	参加数/のべ数		備考
情報発信事業	ボランティアニュース	年1回発行	1	—	—	5,000部発行
	the keys!	年1回発行	0	6	—	
	広報誌「ユースサービス」	年3回発行	3	—	—	3,000部発行
	育成団体交流会	2/22	1		33	26団体
市民参加促進事業	ユースACTプログラム	8/2~2/28	9		99	
指導者養成	YW養成講習会①	8/23, 24	2	15	30	
	YW養成講習会②	3/29, 30	2	16	32	
青少年の交流促進	ユースシンポジウム	9/28	1	189	379	
	ライブキッズ	3/8	1	243	500	新風館
みさやまグローバル	“あたりまえ”じゃない生き方実践講座	12/18	1	13	13	ボランティア含む
	何でも質問Box	通年	51	—	51	
	あったcafe	9月~12月	2	18	18	インターン生含む
	街中コミュニティ	4月~3月	24	26	243	
居心地のよい施設提供(スポーツ事業)	ヒップホップ①-④	年間4クール	35	93	402	自主事業
	ベーシックヨガ①-④	年間4クール	39	57	650	自主事業
	ジムガイダンス	通年	26		278	
その他	フリータイム	通年			533	
	自習室	通年			1,939	

Ⅲ. 子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられている。

(1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理)

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、住居やその近隣の施設などへのアウトリーチの方法も用いて支援を行った。

- 支援ケースは108ケース(前年度からの継続:74ケース, 新規:34ケース)であり、件数は右肩上がり。窓口相談数が減少し新規ケースは減少したものの、担当ケースは増加傾向。
- 年度内に、支援を始めて6ヶ月経過した42ケース中、27ケースで状態の変化が見られる。状態変化の割合は70.4%から64.3%に減少(ひきこもり状態の若者の支援が増加したことが要因)。
- 支援ケースの半数以上がひきこもり区分であり、ひきこもり地域支援センターとしての位置づけと相まって、本人に出会えない状態から始まるケースが増えている。
- 本人支援のためのアウトリーチは、37ケース138回(うち家庭訪問は10ケース53回)実施。増加傾向。

(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて、個別ケース検討会議を実施するほか、地域協議会に設置された課題別検討部会(ひきこもり支援チーム)における検討等を通して、構成機関と連携しながら、支援を行った。

- 個別ケース検討会議を57ケース、延べ375回実施(前年度は68ケース、延べ340回)。ケース数としては減少、1ケース辺りの回数は増加した。
- 代表者・実務者会議(2回)とともに、課題別検討部会を3回実施。ケースに基づく課題の検討を実施。

(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

NPO等民間団体の支援事業に対して、助成することを通し、支援活動を促進するとともに、指定支援機関とNPO等民間団体、NPO等民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。

- 11団体の事業について採択。10団体に助成(1団体辞退)。
親子支援ネットワーク♪あんだんて♪/京都ARU/京都オレンジの会/京都教育サポートセンター/恒河沙母親の会/まちの学び舎ハルハウス/京滋子どもソーシャルワークセンター/勇気の出るライブ実行委員会/若者と家族のライフプランを考える会/グループのそのまま
- 「講演会+NPO活動紹介・交流会」を実施(2014年12月7日)。定員200名を上回る228名が参加。
交流会には助成団体のうち9団体が出展。講演会、交流会とも非常に好評であった。

(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」、「青少年活動センター」と、総合相談窓口・支援室とが密接に連携し、子ども・若者の総合的な支援につなげようとしている。

- 各活動センターに支援連携担当を置き、月1回担当者会議を実施して連携方法・現状を協議・確認した。
- 若者サポートステーション、青少年活動センターの紹介による子ども・若者、家族からの相談:26件
- 青少年活動センター、若者サポートステーションのユースワーカーからの相談:23件
- 相談窓口における、若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介:79件
- 支援ケースにおける、青少年活動センター・若者サポートステーション機能の利用:39件

(5)ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き、支援コーディネーターとともに、対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成・派遣を実施した。

- ひきこもり支援専門委員会において、他機関・団体とともに現状についての情報共有、ピアサポーター養成プログラム実施、ピアサポーターの派遣について検討した。
- 対象者と同世代で、ひきこもり等生き辛(づら)さの経験がある方をNPOより推薦いただき、10～11月にピアサポーター養成プログラムを実施。6団体より15名が参加し、12名が修了、新規登録者が10名で登録ピアサポーターが15名となった。
- ピアサポーターミーティングを12月より月1回行い、話し合いやワークを継続。ピアサポーターの派遣は4ケース、延べ10回(11名)であった。

(6)子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

- 子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応:22件(前年度:13件)
- 外部発表・出展:15件(前年度:15件)
- 「支援機関情報サポートブック」を作成発行した。

(7)京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO団体等が実施する、子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し、活動を促進。

- ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った(認証事業177件)。
- ユースアクションイベントガイドを発行した(年2回/各25,000部発行、約300か所に配布)。
- WEB版のユースアクションプランイベントガイドを作成し、情報をより効果的に青少年や関係者に届くよう発信した。

(8)総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中京青少年活動センター内に設置しており、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、平成25年度より、「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応している。

- 新規相談は、375件であり、前年度(441件)より減少。ひきこもり地域支援センターの位置づけ時に大幅に増加したが、その後、件数が落ち着いてきている。
- 上記新規相談のうち、本人からの相談は120件(32.0%)であった。相談内容は「ひきこもり」が29.6%と最も多く、その他にも多様な相談を受けている。特に進路、家庭内の問題が増加している。
- 年代別では、10代が31.2%(前年度:24.9%)、20代が37.3%(前年度:44.9%)、30代が18.4%(前年度:22.0%)であり、10代の相談割合が増加している。

2. 京都若者サポートステーション受託事業・・・若者の社会的・職業的自立を支援する

一定期間無業の15歳から39歳までの若者に対し、職業的自立に向けた支援を行うため、厚生労働省及び京都市から委託を受けて運営した。26年度は、従来続けてきた学校連携事業の見直し、国の統計システムの変更に伴って、新たなケース記録方法の改変を行った。2014(H26)年度の進路決定者は153名であった。

(1) 入口支援事業

- 窓口インテーク:ユースワーカーがインテーク面談を行う。
- 個別対応:緊張感が高く、なかなか専門相談につなげにくい利用者に対して、関係づくりを行いながら本人のニーズを見出したり、課題を抽出した。

(2) 専門相談事業

- キャリアの相談:火・金・土曜日実施
- こころの相談:月・水・木曜日実施
- 保護者相談:第1木曜 第3,4土曜日,金曜日実施

(3) 就活基礎力

- 職業に就くための、基礎的な能力を学ぶ
- 演劇を使ったコミュニケーションワーク(東山センター)演劇の技法をつかって、表現することを学ぶ。今年度は年2クール実施
 - イマココ マインドフルネスの技法を用いて、緊張緩和の練習を行った。
 - キャリコロ サイコロで題目を決めそれに則した話をする。会話力アップを目指し実施した。
 - キャリスタ 過去の躓(つまず)きによって就労に一步踏み出せない人に対して、ドラマセラピーを行った。

(4) 就労体験事業(青少年活動センター連携事業含む)

- アジプロ(南・下京センター) センターを使って、擬似的な空間で職業体験(南=喫茶,下京=事務)を行った。
- アジプロセカンド ユースホステル,介護施設(デイサービス),1ヶ月の就労体験を行った。
- 野菜づくりから仕事に近づく(北センター)農業(畝づくりから収穫,販売まで)を行い,働く体験を行う。主体性,チャレンジ精神,生活のリズムを作ることを目指し実施した。
- 食の世界をのぞいてみよう(伏見センター)センター内のカフェにおいて定食を作り販売する体験を行った。

(5) 就活実践力

- 基礎力の次のステップとして,就活で実践できる能力を学ぶ
- カタチをしっかり学ぶ就活面接対策講座 ビデオを使い,面接の所作を学ぶために実施した。
 - 自分を知って仕事に就こう 現在の自己イメージを明確にし,「自分軸」を考え将来ビジョンを作成し現時点でできる事を確認するために実施した。

(6) 保護者支援事業

- サポステに来所できない若者の保護者を対象とした支援
- 親こころ塾 一定期間無業状態の我が子との関わり方について学ぶために実施した。

(7) 学校連携支援事業

進路未決定で卒業予定の生徒や中退希望者への支援を行うために,市内4校に訪問を行った。今年度は国の予算減により,訪問回数減となった。

(8) サポステ周知事業

- サポステから比較的遠い地域などで出前相談会を行う。今年度はハローワーク七条,ハローワーク伏見との連携で伏見青少年活動センター,京都産業大学で実施した。
- 四条駅構内でのポスター広告等の広報を実施した。

行事一覧

行事名	実施期間	回数	参加(延)	備考(実施場所等)
(2) 入口支援事業				
窓口相談(インテーク・個別対応の合計)		-	978	
(3) 専門相談事業	通年			
こころの相談	〃	-	556	サポステ及びジョブパーク
キャリアの相談	〃	-	468	
保護者の相談	〃	-	151	南センター
(4) 就活基礎力				
イマココ	毎月1回実施	11	77	
キャリアココ	毎月1回実施	12	88	
キャリアスタ①		4	9	
キャリアスタ②		4	16	
キャリアスタ③		4	10	
(5) 就労体験事業(センター連携事業含む)				
アジプロみなみ ①	7/7~8/11	5	20	南センター
アジプロみなみ ②	9/15~10/27	7	25	南センター
アジプロみなみ ③	12/11~1/19	6	17	南センター
アジプロみなみ ④	2/2~3/19	7	21	南センター
アジプロしもぎょう ①	7/7~7/31	5	8	下京センター
アジプロしもぎょう ②	9/29~10/27	6	12	下京センター
アジプロしもぎょう ③	2/7~2/26	6	17	下京センター
アジプロセカンド	2月	23	23	宇多野ユースホステル
アジプロセカンド	12月	13	13	塔南の園(デイサービス)
野菜作りから仕事に近づく	7~12月	56	254	(サポーター含まず)
食の世界をのぞいてみよう	毎月2回実施	44	91	伏見センター
(5) 就活実践力セミナー				
自分を知って仕事に就こう ①	7/3~10	3	33	
自分を知って仕事に就こう ②	11/13~20	3	29	
自分を知って仕事に就こう ②	2/10~20	3	25	
カタチをしっかり学ぶ就活面接対策講座	毎月2回実施	13	60	
(6) 保護者支援事業				
親こころ塾 ①	6/14~7/12	3	46	ゲストスピーカー含まず
親こころ塾 ②	10/11~11/8	3	56	ゲストスピーカー含まず
親こころ塾 ③	2/21~3/21	3	56	ゲストスピーカー含まず
(7) 学校連携推進事業	通年			
洛陽全日	55	55	314	
伏見定時	16	16	24	
伏見全日	20	20	37	
西京定時	14	14	22	
セミナー	12	12	376	4校合計
面接指導			11	4校合計
その他学校連携数		24	30	
(8) サポステ周知事業(出前相談)	通年	12	39	七条ハローワーク
	9月~1月	6	7	伏見青少年活動センター
	2月9日	1	7	京都産業大学

3. 中学3年生学習支援事業の受託(京都市保健福祉局／福祉事務所)

京都市保健福祉局からの委託により、生活保護世帯において進学を目指す中学生(特に3年生)を対象として、学習支援を行う取組を実施した。BBS会及び地域のNPO等団体の協力を得て、大学生を中心とするボランティアが、中学生の学習や相談相手となりながら、学習支援を行った。保健福祉局・福祉事務所と協力しながら、新たに左京エリアで開設(6月から)した。

<各地域での実施状況>

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	15	23	毎週木曜日	BBS会と連携
伏見青少年活動センター	11	25	毎週木曜日	BBS会と連携
山科青少年活動センター	16	19	毎週金曜日	NPOと連携
南青少年活動センター	13	13	毎週木曜日	単独運営
洛西(コワーキングスペース)	39	23	毎週金曜日	地域団体と連携
中京青少年活動センター	12	27	毎週金曜日	学習支援団体Apolonと連携
醍醐(こどものひろば事務所)	6	5	毎週火曜日	NPOと連携
右京(山ノ内社会福祉会館)	25	33	毎週木曜日	花園大学と連携
左京(左京区役所)	9	14	毎週金曜日(6月から実施)	

- * 洛西での実施は下京青少年活動センターがボランティアのコーディネートを行うとともに、地元育成グループにコーディネーターを出していただいた。
- * 醍醐での実施はNPO法人山科醍醐こどものひろば、右京では花園大学教員にコーディネートを依頼した。
- * 中学生の受験が近づく秋以降、ニーズに対応して、いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

4. 地域若者サポーター活用事業

- 定期的な情報提供(4回)
広報誌「ユースサービス」(18号・19号・20号)の送付、並びに青少年活動センターの事業への協力依頼を行なった。
- 全体での交流会(研修会)の実施(2回)
「今、知っておきたい!危険ドラッグとどう向きあうか」講師:京都ダルクスタッフ 大久保猛 氏ほか
「寄り添い型就労支援の在り方～京都方式(仮)のカタチを考える～」
- 子ども・若者に関わる研修情報の提供(不定期)
ユースシンポジウム、ユースワーカー養成講習会、若者援助の仕事をつくる連続セミナー「欧州のユースワーカーと学び合う2014」などの学びの機会の情報、並びに支援機関情報「サポートブック」を提供した。
- 各ブロックと協働の取組を実施した。
各青少年活動センターに担当ワーカーを置き、各ブロックと若者の居場所作り支援・世代間交流につながる事業を企画、実施した(共催)。

北青少年活動センター

全体の動向

育成団体や周辺大学の演劇系グループ利用が伸びたものの、自習室利用(▲717名)と音楽スタジオ利用(▲790名)が大きく減少し、総利用者数は対前年度比で▲97名の減少となった。自然体験・環境学習事業は、北山三学区(小野郷・中川・雲ヶ畑)の調査や関係づくりをしながら、現地をフィールドにプログラムを展開し始めた。地域交流・連携・参画に関わる事業では、青少年に多様な機会を提供し、地域参加を促進した。また、居場所づくり事業や職業ふれあい事業では、青少年の自立に向けた動きを支援した。自分自身の課題に向き合いながら、新たにボランティア活動を始めるなどの成果が見られた。

1. 自然体験・環境学習事業

①自然に親しむ事業

○自然と暮らし・文化を感じるプログラムを実施した。「柚子農家・日帰りファームステイ体験」では、地元農家と出会う機会となった若者(職業ふれあい事業にも参加)が、繁忙期の短期アルバイトとして就労することになった。

②こども自然体験クラブ

○月に2回程度、青少年ボランティアが定期的にミーティングを行い、「大文字山での生き物観察」や「山のくらし体験(マキ割り)」など、自然の中で遊び、学ぶ体験ができるプログラム(小学生対象)を企画運営した(計4回、うち1回は台風で中止)。

③環境負荷の少ない施設運営と啓発

○事務所から出る厨芥(ちゅうかい)類などの堆肥化をパイロット的に始めた。

○KESの取り組みの一環として、節電・節水・ゴミの分別など利用者に協力を呼びかけるとともに、ウェブサイトやFacebookでも発信した。

2. 居場所づくり支援事業

①みんなの居場所〜ごぶSAT(ごぶさた)

○毎月第2・第4土曜日に、コミュニケーションが苦手など、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーションなどのプログラムを実施した。個人面談を実施し、それぞれが感じる課題を本人と共有した。解決に有効な共同作業などをプログラムに組み込み、就労・進学への意欲や成長が見られた。

②アフタヌーン亭(しゃべり場)(地域若者サポーターと共催)

○北・上京・左京ブロックと共催し、毎月第2・4土曜日に「アフタヌーン亭」をロビーにおいて実施した。青少年の異世代交流の場となっている。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域活性ボランティア

○地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と月1回、定期的に紫明通りの清掃活動を行った。

○北区役所のふれあい事業(北区民春まつり、北区民文化フェスティバル)に参加協力したり、地域のイベントのブース出展(FUNAOKA STANDARD、新大宮夏祭り)にも参加した。

②伝記作成プロジェクト

○青少年がセンター周辺にお住まいの高齢者から人生のお話を聞き取り、手づくりの冊子(伝記)にまとめ、敬老の日に贈呈した。高齢者から戦争体験や戦後の復興時代、その後の人生のお話を聞くことで、教科書に載っていない学びの機会があり、青少年が今の時代との違いを考える機会となった。

③サンタになろう!(サンタクロス・プロジェクト)

○クリスマスイブの夜に、青少年がサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた(訪問家庭16軒)。

○京都女子大学の社会教育実習生2名の他、視覚障がいのある大学生や発達障がいの若者も受け入れた。多様なメンバーと一緒に活動し、子どもの喜びや笑顔にふれて高い満足感と達成感を得た。

○地域で活動される団体のクリスマス会にも参加協力し、青少年が地域の方々と交流できる機会にもなった。

④西陣ひと・まち・もの語り

○西陣地域を中心に、街並みや歴史、人々の生活や習慣などをインタビューし文章にして、HPに掲載した。(3件)

○「30選集」を作成し、各青少年活動センターと北図書館に設置した。

⑤北こみまつり(北区身体障害者団体連合会と共催)

- センター全館と保健センターの一部を使用し、活動発表ステージや、障がいについて理解を深めるブースからなるイベントを企画実施した。出演者・出店者へのオリエンテーションでは、当事者の話を聞くことで青少年が「障がい」について理解し、学びながら交流できる機会を設けた。当日は昨年度より約100名増の281名の来場者があった。

⑥HIV・性感染症予防啓発事業、若者しゃべり場(保健センターと連携)

- 北保健センターの協力を得て、「北コミフェスタ」内で「HIV予防・啓発」に関するパネル展示と、「命を大切に考える」赤ちゃん人形抱っこ体験コーナーを設けた。HIV即日検査(無料)も実施し、10件の受診があった。

⑦北区学生×地域応援団(北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

- 北区内の4大学(京産大、立命館大、佛教大、大谷大)のボランティアセンター担当者同士で情報共有ができる場として機能した。さらに「学生と地域とを結びつける場」のプラットフォームとなるべく、地域で活動する団体からニーズのヒアリングを行なった。

4. 担い手育成に関わる事業

①自主活動支援事業

- 青少年による自主的な企画を実施するために、必要な支援協力を行った。登録グループは、カフェピース(居場所づくり)、BBS(中3学習支援)、KYODOキッチン(地域の伝統料理の継承)の計3件。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①eat☆moくらぶ(いいともくらぶ)

- 「食」に関する事業を、料理室の利用促進と参加者の交流を目的に年4回実施した。中学生から20代後半まで幅広い参加・交流が見られた。

②きたせいフリータイム

- 多目的ホールに卓球台を設置し、予約なしでも卓球が気軽にできる時間を月2回設けた。日頃あまり運動する機会のない青少年たちが積極的に利用する様子が窺えた。
- 青少年が、集中して勉強するために自習室を開放した。センター利用の入口機能を果たしている。

③広報充実事業

- 新1年生向け施設紹介資料としてクリアファイルを作成し、近隣の高校にて配布した。
- 北区内の大学ボランティアセンターが主催するボランティア説明会で、ブース出展を行い、新規ボランティアの獲得を図った(京産大、立命館大、佛教大、大谷大の4大学で5日間)。

6. 相談・支援の取組

①ロビーにおける情報提供事業

- 何でも質問・何でも相談コーナーを設置し、情報提供から相談まで合計で183件が寄せられた。

②相談事業

- 件数は293件と前年度より大幅に増加(+35件)した一方、回数は389回とほぼ前年並み(+4回)であり、継続相談よりも単発相談が増えた。発達障害や精神障害などを抱える若者からの相談が増加した。

③「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働く事を考える15週間～」(職業ふれあい事業)

- 中間的就労の場として、野菜づくりの一連の流れ(畑づくりから種まき、水やり、収穫、販売まで)を体験した。
- 少人数でのグループ体験を通して、達成感や信頼感を得る機会となり、7名の参加者の内、5名が就労(アルバイト含む)に結びついた。

④BBS中3学習会

- 生活保護世帯の中学生を対象に、高校受験に向けた学習会を立命館大学衣笠地区BBS会が主体的に運営できるように支援した。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

- 京都府の「立ち直り支援チーム(ユース・アシスト)」に協力し、家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして、地域若者サポーターとともに、月1回の地域清掃活動を行った。

行事一覧

事業名	実施時期	回数	参加者(のべ)	備考(実施場所等)
自然に親しむ事業 ①「大文字山ナイトハイク」 ②③「ゆず農家・日帰りファームステイ」 ④「ゆず絞りボランティア体験」	①6/8 ②11/24 ③12/7 ④12/20	4	①6 ②5 ③4 ④9	①大文字山 ②③④右京区水尾
こども自然体験クラブ(ミーティング)	通年	57	13(208)	
こども自然体験クラブ(子どもとの事業) ①「探検☆発見ハイキング!!」 ②「つくってワクワク☆真夏の川あそび」 ③「もくもく号でゆく!山のくらし探検隊」 ④「野鳥ヨーデル!バードウォッチング」	①5/26 ②8/10(中止) ③12/6 ④2/22	3	①こども15/Vo.3 ②台風で中止 (申込数16) ③こども8/Vo.7 ④こども9/Vo.6	①大文字山 ②八瀬 ③雲ヶ畑 ④桂坂野鳥遊園
みんなの居場所 ごぶSAT(ごぶさた)	通年 (第2・4土曜)	23	参加者(205) ボランティア(36)	
地域活性ボランティア(清掃活動)	通年 (第1土曜)	11	ボランティア(60) 共催団体等(27)	紫明通り
地域活性ボランティア(ミーティング)	通年(第1土曜, 第3木曜)	31	(141)	
地域活性ボランティア(地域活動) 憲法月間街頭啓発/北区民まつり/北区新大 宮夏祭り/FUNAOKA STANDARD/北 区民文化フェスティバル など		13	(982)	北大路タウン/船岡山/ 新大宮商店街/船岡山 /北文化会館
伝記作成プロジェクト ①研修会 ②交流会 ③贈呈式	①5/26 6/5,7/3 8/21 ②6/7 ③9/15	6	①Vo.(72) ②高齢者4・Vo.20 ③高齢者5・Vo.15	
伝記作成プロジェクト(聞き取り)	5/27~9/16	72	30(250)	
サンタになろう!(ミーティング,準備など)	9月~12月 (毎週月曜)	41	13(190)	
サンタになろう!(施設訪問)	12/23	1	50	山科コロコロ体操クラブ
サンタになろう!(家庭訪問)	12/24	1	101	
西陣ひと・まち・もの語り(ミーティング)	通年	33	7(92)	
西陣ひと・まち・もの語り(聞き取り)	通年	4	(18)	
北コミまつり(会議,オリエンテーションなど)	9/2~3/24	19	(212)	
北コミまつり	3/15	1	281	
自主活動支援事業 カフェピース, KYODOキッチン	通年	27	(125)	
自主活動支援事業(BBS) 中学3年生学習支援プログラム	通年 (毎週火曜)	54	学習者(122) ボランティア(328)	
eat☆moくらぶ(いいともくらぶ) ①「野菜ソムリエの料理教室」 ②「天然酵母のパンづくり」 ③「はじめてのX'mas Cakeを作ろう!」 ④「気軽に作ろう!Myおせち」 ⑤「バレンタインのチョコケーキを作ろう!」	①7/6 ②11/16 ③12/7 ④12/19(中止) ⑤2/1	4	①9 ②11 ③9 ④(申込み数4) ⑤12	
職業ふれあい事業	7/31 ~11/30	68	(446)	農作業:岩倉長谷町 研修:北センター 販売:ウイングス京都玄 関前など

東山青少年活動センター

全体の動向

事業面では、ボランティアや地域若者サポーターの協力を得て、居場所づくり事業の内容を充実し、ものづくりを通じた定期的な活動に力を注いだ。また「学校との連携プログラム」、「東山フェスタ」では、学校や地域団体との協力事業を進めているほか、就労問題に取り組むサポートステーションとの連携事業では、タイトルや内容について工夫をこらし、演劇の手法を活用した参加しやすいプログラムづくりを目指した。

広報については、センターのパンフレットを増刷したほか、施設や設備の案内パンフレットを新たに作成した。また、ブログやFacebookなどSNSを活用した情報の受発信の頻度を高め、認知度の向上に取り組んだ。利用者数は、ほぼ横ばいで推移している。

1. 創造表現活動事業

(1) 余暇活動支援事業

① 東山アートスペース(A・Bコース)

- 知的障がいのある青少年の余暇活動支援を目的としたアトリエ活動として、若手アーティストやボランティアの協力を得て実施した。また、昨年度制作した作品展示を区役所1階ロビーで実施した。
- 青少年が、ものづくりの技術や「障がい」のある若者との関わり方を学ぶ機会として、ボランティア研修を実施した。

② 表現活動へのお誘い～からだではなそう～(A・Bグループ)

- 知的障がいのある青少年の余暇活動の充実や、コミュニケーションなどライフスキルの獲得を目的とした身体表現プログラムを、コンテンポラリーダンサーやボランティアの協力を得て実施した。また、指導者(ナビゲーター)の世代交代をすすめている。
- 5月から6月にかけては昨年度後期分、11月から12月にかけては今年度前期分の活動記録写真をロビーに展示し、事業の周知を図った。

(2) 創造体験事業

① 演劇ビギナーズユニット(京都舞台芸術協会との共催事業)

- 初心者対象の演劇の集団創作プログラム。中学生から大学生、社会人が参加し、最後に修了公演を実施した。他者との共同作業や創作へのチャレンジを支援することで、青少年の対人関係力の向上や自己形成の機会としている。また、中心的に創作を支えてくれているプロデューサー・制作者の世代交代を進めた。演出担当や裏方スタッフなども一新し、京都の若い演劇関係者が活躍できる場を提供した。

② ココロからだダンス W.S

- 初心者を対象とした約3ヵ月間のダンス集団創作プログラム。創作ダンスの協働での作品づくりや、みんなで1つのことを成し遂げる達成体験は、参加者それぞれの考え方や行動に影響を与え、事業終了後の生活場面に生かせるような変化をもたらすことができた。また今回から裏方スタッフを一新した。

(3) 若者文化発信事業

① ステージサポートプラン(14グループをサポート/YU'Zは、延べ23グループが利用)

- 日頃の活動成果を発表する場を提供する。発表・公演に必要な一定期間、創造活動室を提供し、舞台・照明・音響関係のテクニカルサポートや制作面での支援を行った。
- YU'Zでは、発表や公演等を控えている表現活動グループに対して練習場所を提供した。経験や知識の少ないグループが多いため、サポートを得ながら安心して自主公演のできる機会との評価が得られた。

2. 居場所づくり支援事業

① 東山コトハジメ

- 中高生を対象に、気軽に参加できるプログラムを定期的に実施した。少人数でのものづくり創作体験を通し、多様な価値観との出会いや自己実現へつながる支援をボランティアとともにいった。
- 「東山区民ふれあいひろば」(5月)では、地域の小学生を中心とした幅広い世代を対象に、クレイアニメを体験してもらうブースを設け、センターの社会的認知の向上に努めた。

② ものづくりワークショップ(自主事業)

- 陶芸・木工などのものづくりを通じた交流事業。日頃何げなく使っている「モノ」に対して、作り手の存在や工程を感じる格好の機会となった。
- 若手アーティストが知識や技術を青少年に伝える機会と経験を提供した。

③ ヒガシヤマDEものづくり(自主事業)

- 地域若者サポーターの協力を得て、ものづくりを通じた交流・居場所づくりを行うとともに、創造工作室の利

用促進をはかった。

- 陶工技術専門校の学生の継続利用やサンドブラストの利用者が多いが、その他の個人利用も増えてきている。また陶工技術専門校の学生の窯の占有利用も増加している。

3. 地域交流・連携・地域参加を促進する事業

①地域(団体／グループ)・NPO等との連携プログラム(共催事業)

- 人づくり21世紀委員会、スマイルミュージックフェスティバル実行委員会、要保護児童対策地域協議会等への参加と参画。
- 大学からのインターンシップやボランティア体験、社会教育実習等の受入れの実施。
- 年齢制限によりセンターを卒業しなければならない、障がいのある青少年を支援する活動グループ「ピュール」(表現活動)、「アトリエ VIVID」(創作活動)の運営サポートを行った。

②学校との連携プログラム

- 創活番ボランティアの協力を得て、京都市中学校教育研究会演劇部会、京都府高等学校演劇連盟(中部支部)の合同公演サポートを行ったほか、京都橋大学(文化プロデュースコース専攻生)のスタッフワーク研修の開催をした。
- ダンスフォーラムでは関西の教育関係者40名が集まり、教育現場での創作ダンスの取り組みについて意見交換を行なった。

4. 担い手を育成する

- 事業に関わってくれているボランティアスタッフが、障がいのある若者や自分たちの活動について考える機会や研修を実施した。
- 創活番ボランティアの世代交代が進んだ。新しいボランティアの内の2名は、中学、高校時代にセンターでの合同公演に参加した経験があり、今回大学を卒業してサポートする側になっている。

5. 利用促進・情報発信・広報を進める

①東山フェスタ

- 市民への周知を目的に、青少年や若手アーティスト、関連団体の協力を得て、表現活動やものづくりを中心とした参加・体験型プログラムを、夏休み期間中に実施した。(全21プログラム、内3つは台風のため中止)
- まちづくりアドバイザーと連携し、多世代交流型の地域事業をプログラムに加えた。

②ホームページの管理運営・情報発信

- ホームページやブログ、Facebook、情報誌「ヒガシガン」による定期的な情報発信(年に4回)を青少年ボランティアの参画により行った。Facebookについては、ブログとの連動を始め、「いいね」数は150件から295件までアップした(+145 いいね)。ホームページの訪問者数は、12,954人で、昨年度から206人分増加した。
- ロビー空間では事業に関連した作品の展示だけでなく、利用者の活動アピール、参加型掲示を行った。

6. 相談・支援に取り組む

①相談・情報提供

- 青少年が不安や悩みを自分の力で解決し乗り越えていくために、関係機関と連携した支援を進めた。職業選択や人間関係づくり、将来についての相談に応じた。継続しての相談回数が増え、継続的な支援を行っている。

②演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク(インプロヴィゼーション・ワーク)

- 無業の状態が続く若者を対象に、ゲームや俳優のトレーニング方法を応用した、自己表現やコミュニケーションについて気づき、学べるプログラムを提供した。

7. 運営協力会

- 大学や企業、関係公共機関などから選出した委員に、青少年の支援やセンター事業に関する意見を求め、その内容を運営に活かすよう努めた。

行事一覧

行事名	実施期間	回数	参加数(のべ)	備考(実施場所等)
演劇ビギナーズユニット2014	5/22～9/4	38	16(1,753)	自主練習含む
修了公演	8/30・31	3	275	
ココロからだダンスW.S 2014	12/8～3/26	31	9(396)	自主練習, ボランティア含
修了公演	3/20～22	3	(131)	
ステージサポートプラン	4/1～3/31	207	(3,860)	ボランティア含 14団体16公演
「YU'Z」	4/1～3/31	203	(1,434)	23グループ(延べ36件)
創活番	5/18～1/19		7	
東山アートスペース(A・Bコース)	6/1～3/1	18	36(510)	ボランティア含
お試しプログラム	5/11	1	13(13)	ボランティア含
夏イベント	8/24	1	19(19)	ボランティア・保護者含
春イベント	3/15	1	18(18)	ボランティア・保護者含
作品展展示	4/1～4/21	21	(1,485)	東山区総合庁舎展示ホール
表現活動へのお誘い ～からだではなそう～	5/17～9/27	20	42(436)	ボランティア含
写真展(昨年度後期)	5/6～6/1	57	(1,397)	
写真展(前期分)	11/1～11/30			
東山コトハジメ	5/17～3/27	14	6(131)	5/25区民ふれあいひろば出展(開晴館)
学校との連携プログラム				
①高劇連中部支部演劇基礎講習 会と交流会	5/11	1	116	
②京都橘大学スタッフワーク研修	5/17.18	2	22	ボランティア含
③照明・音響講座(中劇研・高劇 研)	5/17・1/11	2	中劇研46 高劇研92	ボランティア含
④中劇研春の合同公演	6/7～8	9	122(430) 公演来場(334)	リハーサル・本番含 市内の私立・公立中学校8校
⑤ドラマスクール	7/24・25	2	69	
⑥高劇連中部支部冬の合同公演 「冬劇祭」	1/12～16 1/17.18	11	90 (公演来場280)	仕込み・リハーサル・本番含 京都府立・私立高校8校
⑦教育関係者とともに考える創作 ダンスワーク	12/13.1/10. 2/14.3/14	4	19	
ダンスフォーラム	11/24	1	40	
東山フェスタ2014	7/21～8/31	47	(1,271)	19プログラム企画(共催は11) 黒門湯/京女大栄養クリニック
自主事業 前期ものづくりワークショップ 「お茶を楽しむうつわをつくろう」	9/2～10/7	10	12(87)	創造工作室
自主事業 後期ものづくりワークショップ 「木の小物をつくろう」	3/2, 3/9	6	15(33)	創造工作室
自主事業 ヒガシヤマDEものづくり	4/3～/29	134	60(464)	地域若者サポーター含
演劇から学ぶ, 働くためのコミュニ ケーションワーク	①10/28.11/11～17	4	21(59)	中京青少年活動センター
(インプロビゼーション・ワーク)	②1/13.1/27～17	5		東山青少年活動センター

全体の動向

非行傾向にある10代の青少年の来館が多く、個別的なかかわりを維持しつつ、関係機関や地域との連携・協働を通じたサポートネットワークの構築を図った。勸修中学校における「学校連携・地域福祉型学習支援事業」の立ち上げや、少年非行問題を市民とともに考える新たな企画の実施など、より機能的な広がりを持った地域協働に挑戦した。

1. テーマ別事業 青少年の地域参画及び地域協働・連携に関する事業

①やませいあえるフェスタ(第13回ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科)

センターで活動する青少年に、自主運営の模擬店出店を呼びかけた。さらに、中高生を対象とした通貨システム、を試行的に実施し、例年になく多くの中高生が参加した。

②青少年の地域参画事業「ソーシャル・ハブ」

中高生を対象とした「山科ユースアクション」(夏休みの福祉体験, 山科区社協主催)と立命館大学シチズンシップ・スタディーズ受講の大学生をつなぎ、継続的な地域参画に取り組んだ。

③龍谷大学LORCとの協働事業

京都市立勸修中学校及び同中学校区を構成する2小学校の「開かれた学校」づくりと、学校運営協議会設立に外部専門家として協力。教職員のコミュニケーションの場をデザインした。

2. 居場所づくり支援事業

①ティーンエイジャー応援企画

土・日・祝日、学休期間中に中高生を対象にスポーツルームを開放し、利用の定着化を図った。また、喫煙、お金、恋愛など身近なテーマを考えるロビー掲示を行った。

②やませいかフェプロジェクト

次年度以降の本格的なカフェ事業の稼働に向けて、夏休み以降、「宿題カフェ」や「バレンタインカフェ」など準備的な活動を行った。

③ロビーワーク研究

これまでのロビーワーク実践の言語化を行うべく、10代に関わってきた経験のある職員や外部団体の職員にヒアリングを行った。分析・まとめには着手できていない。

3. 担い手養成事業

①ボランティア育成事業

年間を通じたロビーボランティア(愛称「ロビーズ」)の活動をサポートした。しかし、メンバーの人数や活動頻度が減少し、あらためて再編が必要な状況。

②実習生・インターン生の受入れ

年間を通して、京都橘大学、京都女子大学、立命館大学大学院からの実習生・インターン生を受け入れ、実習指導を行った。

4. 利用促進・情報発信・広報

①地域共催事業

- 京都橘大学日本語教員養成課程の学生ボランティアによる日本語教室「たちばな倶楽部」
- めくるめく紙芝居実行委員会「めくるめく紙芝居」
- 地域活動ボランティア あそび隊
- 京都中央地区 BBS 会「アフタースクール洛東」
- 京都市母子寡婦福祉会山科支部「ひとり親家庭等の子の居場所づくり事業」
- 青少年持ち込み企画のダンスワークショップ「Bboy Onton Workshop from Supernaturalz」

以上6つに共催・協力を行った。共催団体・青少年育成団体には「やませいあえるフェスタ」への参加協力または活動紹介ブースの設置を要請し、団体どうしの交流につながった。

②やませい広報プロジェクト

山科区の全中学校で新入生にパンフレットを配布。また、「やませいだより」を定期発行した。

③ひとりで使える自習室

年間を通して、相談や他事業への参加に誘う「関わりの入り口」として自習室の開放を行った。

5. 相談・支援事業

①セクシュアルヘルス関連事業

関係機関と協力して、障害のある若者やその支援者に向けた取り組みを実施した。

②学習支援事業

○やましな中3勉強会(生活保護受給者中学3年生学習支援プログラム)

山科福祉事務所及びNPO法人山科醍醐こどものひろばと連携して、生活保護世帯の中学生を対象に、高校進学をサポートする勉強会を週に1回実施した。

○勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト

中学校との連携及び地域住民の主体的参加を基軸とした「学校連携・地域福祉型学習支援」のモデル事業として、10月から「放課後学習会」を週に1回実施した。

○高校生学び・余暇サポート企画

中3勉強会の卒業生を対象にした同窓会企画を実施。その他の取り組みには着手できていない。

6. 少年非行の予防や軽減に関わる事業

①若者の「いま」を考えるサロン

少年非行をテーマにしたリレー講座を4回実施した。関係する機関や地域住民に青少年の現状を理解してもらうことで、青少年の育ちを支える地域ネットワークの構築を図った。

行事一覧

行事名	実施時期	回数	参加者数 ／のべ	備考(実施場所等)
やませいあえるフェスタ	11/9	1	610	
ソーシャル・ハブ	4～11月	20	322	
やませいカフェ	12/20～3/31	11	112	
自習室	4/1～3/31	306	3019	
共催事業(合計)	通年	74	918	
【セクシュアルヘルス関連事業】				
支援者のためのセクシュアルヘルス講座	9/25	1	74	山科区役所
障がいのある若者に関わる支援者のための性教育セミナー	11/10	1	21	
障がいのある若者のためのセクシュアルヘルス講座	2/26	1	20	
やましな中3勉強会	通年(毎週金曜日)	51	693	
勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト	通年(10/9から毎週木曜日)	89	2156	京都市立勸修中学校ほか
高校生学び・余暇サポート事業	7/13	1	19	
若者の「いま」を考えるサロン 特別企画	8/31	1	38	京都市東部文化会館
若者の「いま」を考えるサロン 連続企画	11/22, 1/24 3/14	3	129	

下京青少年活動センター

全体の動向

利用者数は前年度に比べ増加。施設利用・事業参加ともに増加した。

ロビーや施設利用に関して、前年度より非行や規範意識の薄い中高生の利用があったが、今年度に入ってから、それらを含むグループの利用が続いた。反社会的な行為には対応しつつ、その背後にある理由に焦点を当て寄り添い、話を聴きながら関係をもつことで、徐々に信頼関係を構築できるようになってきた。地域住民との関係も大切にしつつ、周囲の清掃や地域との協働のイベントを持つなど関係構築に努め、理解が深まってきた。近隣中学校の補導主任と生徒指導の担当者と定期的な意見交換の場を持ち、どのように成長を促していかるか話し合った。一方、広報面では、地元との関係強化を図るため、各商店街や企業、学校関係などを回り機関誌の配布など広報を行った。

なお、現下京センターは3月で閉所し、新しい施設において4月から開所することとなった。3/21に閉所式、3/29にクロージングパーティを行い、利用する若者とともに広く関係者に来所いただいた。

1. スポーツ・レクリエーション事業

①スポーツルーム・フリータイム

○人気のあるスポーツルームにおいて、中高生年代を対象に予約なしで使える時間帯を設定し、余暇充実の場となった。フリータイムへの参加を足がかりに、フリータイム前後の時間帯や実施していない日にも部屋を予約してスポーツを楽しむ姿が増えてきている。また、継続的に利用しているグループがセンターの他の事業へ参加したり、ボランティアスタッフに登録したりするなど、新しい動きが生まれている。また、昨年度に引き続き、利用の前後で日常的な話題から相談への繋がりが見られ、継続的な関係を構築することができた。

②トレーニングルーム・ガイダンス

○トレーニングルームを初めて利用する人を対象にトレーニングルームアドバイザーが中心となりガイダンスを実施。トレーニングルームの利用者の口コミにより、参加者が増加した。

③トレーニングルーム利用活性化事業

○前年度に引き続き参加者は減少傾向にあるが、友達からの紹介で登録し、登録後は、個人でも継続して利用し、部活帰りにグループで利用するなど中高生が多かった。

④ストリートダンス教室

○初級はダンスの基礎を学び、中級はイベント出演に向け、技術の向上を目指した。講師の交代や参加者の入替えがあったため、交流会を開催するなどして参加者同士の交流を図った。

2. 居場所づくり支援事業

①ロビーワーク

○日常的にロビーを利用する中高生に対して関わる事業。また、月に1回程度ロビープログラムを運営し、参加者と一緒に過ごす機会を作った。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①しもせいフェスタ(ラウンドアイズ)

○3階で青少年グループの舞台発表と模擬店ブース、2階では青少年ブース、1階駐車場ではフリーマーケットを設置し全館を使ったお祭りを実施した。

○また、商店街に協力をしていただき、商店街をまわる謎解きゲームを実施した。その他にも、同日開催の「梅小路いきいきフェスタ」や、七条中央サービス会「サマーナイトフェスティバル」への参加など協働の機会が増加し、地域のセンターへの理解を得るきっかけとなった。

○YouTube では、数多く再生がされた「踊る!!七条の商店街」の第2弾を公開した。下京区の「下京区民が主役のまちづくりサポート事業」に応募し、対象事業に採択された。

②プラン・ドゥ

○MIHO ダンスファクトリーからの申請による「KID'S HIPHOP」を4月から3月まで実施。また、KOBATY.F.Cからの「KOBATY CUP(フットサル大会)」の開催依頼を受け、5月、7月に実施。7月に「SHIMOCITY(ストリートバスケット大会)」を実施した。

③スタッフ派遣事業【スクランブル】

○「小学校対抗ドッチボール大会」(下京区少年補導委員会)、「下京区ふれ愛まつり」(下京区役所)にスタッフを派遣した。また、光徳学区少年補導委員会から「光徳学区町別対抗ドッチボール大会」の依頼を受けスタッフを派遣。梅小路公園で若者アーティストが実施した「みどり市～老若男女ハッピーフェス～」の広報協力を行うなどセンター近隣における活動の幅が広がった。

④地域共催事業

○下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会、「下京つながりフェスタ」への協力、地域に根ざしたバレーボールリーグ「Sリーグ」の実施、その他「レクリエーション・インストラクター養成講習会」、「下京歩歩塾(しもぎょうぼっぼじゅく)」、「わんわんキッズ」などの地域事業に共催した。

⑤中3学習支援事業「らくさいスコール」

○洛西地区の中3学習支援を中心に活動した。学習支援では、参加者もボランティアもモチベーション高く取り組んだ。3月の高校受験では参加者全員が高校に進学した。

4. 担い手育成に関わる事業

①しもせいユースボランティアネットワーク

○年間を通じて、ボランティア活動への問合せが増え、青少年ボランティアスタッフとして、昨年一昨年を超える115名の登録があった。

②しもせいチャレンジ☆キッズ

○青少年ボランティアスタッフと子どもがスポーツ・レクリエーションを通して継続的に関わることで、互いに成長するという目標の下、事業を実施した。年間を通して青少年ボランティアスタッフ51名、子ども59名の登録があり、多くの参加者が目標を達成できた。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①広報事業

○中高生向けの下京青少年活動センターパンフレットを作成し、クリアホルダーに入れて、近隣中高5校の新入生に配布した。その結果、スポーツルームの利用を始め、センターへ来館する新入生が増加した。

6. 相談・支援の取り組み(就労支援を含む)

①あたまとからだを使ってじっかんするプログラムⅡ(アジプロⅡ)(サポステ連携事業)

○事務所内において電話受付や窓口対応の就労体験を実施した。各回の終了後には一日をふりかえり、他者からフィードバックを受ける時間を設けることで自分を見つめ直し、就労に向けて次のステップを具体的に考える機会となった。

②相談事業

○スポーツルームを利用する中高生や事業参加者など、信頼関係が構築された若者を中心に30件の相談を受けた。また、「超なんでも箱(なんでも質問BOX〈再掲〉)」や、ロビーでの関わりをきっかけに悩みの相談に発展していた。学校での人間関係や過去の性被害に関する相談など、深刻な相談を受けることがあり、学校や相談機関などと連携するケースがあった。

③ロビーにおける情報提供

○「超なんでも箱(なんでも質問BOX)」「あなたにとってしもせいとは?」「七夕たんざく」など掲示板にコーナーを設けて書き込みができるようにすることで、若者特有の意見や思い・悩みが書き込まれていて、これらをきっかけにさまざまな話ができるようになった。

7. 少年非行の防止・軽減に向けた取り組み

①非行防止・いじめ支援組織づくり

○下京区内の少年補導委員会主催事業(ドッジボール大会やお祭りなど)へボランティアを派遣した。

(1)運営協力会との連携

○センター主催事業開催にあたり、広報・備品の貸し出し・入場者の動員など多大な協力をいただいた。

行事一覧

行事名	実施時期	回数	参加数／のべ	備考(実施場所等)
スポーツ・レクリエーション事業				
スポーツルーム・フリータイム	4月～3月	121	1,734	
トレーニングルームガイドランス	4月～3月	43	141	毎週木曜日開催
トレーニングルーム利用活性化事業	4月～3月	71	233	毎月・木:体力増強コース, 火・金:筋力中心コース
ストリートダンス	4月～3月	41	379	毎週土曜日開催
居場所づくり事業				
ロビーワーク	4月～3月	7	41	
地域交流・連携・参画に関わる事業				
しもせいスタッフ派遣事業 「スクランブル」	4月～11月	2	235	下京区民まつり, 下京区小学校対抗ドッジボール大会, 下京区内小学校区主催事業など
しもせいフェスタ当日	10/5	1	2,044	下京青少年活動センター全館
しもせいフェスタ(ラウンドアイズ)	5月～3月	231	2,209	七条中央サービス会「サマーナイトフェスティバル」, 「梅小路いきいきフェスタ」等の協力含む
プラン・ドゥ				
Kid's HIPHOP	4月～3月	44	577	MIHOダンスファクトリー主催
KOBATY CUP	5月・7月	3	80	KOBATY主催
地域共催事業				
Sリーグ	4月～3月	94	3,073	Sリーグ運営委員会主催
レクリエーションインストラクター養成講習会	6月～12月	8	172	京都府レクリエーション協会主催
下京歩歩塾(ぼっぼじゅく)	4月～1月	8	139	下京歩歩(ぼっぼ)塾運営委員会主催
わんわんキッズ	4月～1月	18	450	子育てサロン「わんわんキッズ」運営委員会主催
担い手育成に関わる事業				
しもせいチャレンジキッズ	5月～8月 10月～2月	7	150	花脊山の家, 百井青少年村等
しもせいチャレンジキッズ(ボランティア)		79	796	
就労支援に関わる事業				
アジプロⅡ	7月～3月	14	26	サポステ連携事業(2期開催)
学習支援に関わる事業				
らくさいスコーレ	4月～3月	50	1,059	コワーキングスペース洛西
閉所に関わる事業				
閉所式	3/21	1	300	
しもせい感謝祭	3/29	1	106	

南青少年活動センター

全体の動向

余暇を過ごす場としてセンター近隣の中学生や高校生の利用があり、交流や息抜きを求め20代が来館するなど、それぞれのニーズに応じた「居場所」の提供ができた。また、前年度から関係を構築してきた青少年団体との共催・協力事業の機会が増えた他、関係機関との情報交換や新たな取り組みの試行、イベントの実施協力などを進めた。

1. 居場所づくりを支援する

(1) 青少年が落ち着き、また楽しむことのできる居場所づくり(リラックス&エンジョイ)

①ロビーワーク

○“居場所”を意識したロビー空間づくりを行った。多様な青少年が来館し、青少年同士・ボランティア・インターンを交えた交流がなされた。直接的な相談のみならず、「何でも質問BOX」により年代問わず広く質問や相談が寄せられた。

②ロビー喫茶

○10代を中心とした青少年を対象に、ボランティアを含めそこに集う人たちが語り合うことのできる場づくりを行った。学校をこえて交流を深める場面や、勉強・進路や私生活の悩みを相談する場面があった。述べ参加者数としては前年度より減少した。

③自習室・フリータイム

○青少年が気軽に施設利用するためのきっかけ作りとして、予約不要で自習・卓球・ダンス練習が行えるスペースの開放を行った。いずれも中学生から社会人まで幅広い年代の利用があり、一部利用者は他事業への参加や相談につながった。

④交流サロン hana cafe

○調理や喫茶に関心を持つ高校生・大学生が集い、月2回の喫茶運営を行った。メニュー検討から当日の運営までスタッフが中心となって行い、スタッフ同士、また利用者とも交流が進められ、自分達が作り上げる喫茶として高い満足度が得られた。

⑤20代話せるプログラム

○20代の青少年が飲食を媒介として他者と交流する機会を提供した。継続して参加を希望する者も多く、他者との交流含めて居心地の良い場、一息つける場を提供できた。当事業を足掛かりに、他事業への参加やセンターを息抜きの場とするなど、次への一歩や成長のきっかけ、心の安定となる場として機能した。

(2) 青少年が成長の機会としてチャレンジのできる居場所づくり(チャレンジ)

①STEP-UP

○少人数の青少年が相互に関わりあい、気づきを得る場としてグループ活動(園芸部)を実施した。

○参加者の状況に応じて柔軟に他センターの就労体験事業などへ紹介を行った。

②就労体験事業-アジプロ

○喫茶運営を通じた就労体験を4クール実施し、20代を中心に14名の参加があった。研修や振り返りを通して自己の特性を知り、働くイメージが前向きに変化するなど仕事に対する感情の変化がうかがえ、就労に結びついた者もいた。

(3) 青少年がその力を発揮していくための居場所づくり(アクション)

①ボランティア活動「VoM's」～みんなでみなみをもりあげよう～

○新しいことへの挑戦や、他者と交流する機会としてのボランティア活動を実施。気軽さを重視した月1回の清掃活動の他、フリーマーケットや区民まつりなどセンターや近隣で行われる行事に参加し、多様な世代と関わる機会となった。

○積極的に活動を行うことよりも緩やかな関わりを求める参加者が多く、主体的な活動には結び付きにくかった。

②みなみ“わくわく”プログラム

○月に一度の卓球大会、夏休みやクリスマスなど季節に関連付けたプログラム、ステージ発表・交流の場「minami sonic」など、青少年が気軽に参加できる場を広く設けた。

○プログラムによっては、吹奏楽グループが飛び入りで演奏をしたり、絵が得意な高校生がチラシの挿絵を描いたり、青少年の得意分野を活かす場を提供できた。

③ロビーギャラリー

○青少年の創作活動や社会活動の発信の機会として、絵画や写真の展示を実施した。単なる展示のみならず、出展者と鑑賞者が直接交流できる機会も設け、互いに刺激し合う様子も見られた。

④青少年共催事業

- 南区を拠点に活動する「みかんマルシェ」「cumin project」による地域活性化事業や報告展示、ダンス団体「SINOBI」主催のダンスバトルイベントなどを実施した。
 - それぞれの事業にセンター利用者の参加があり、他年代同士での交流も見られた。
- ⑤寄附事業 未来の「匠」応援！プロジェクト**
- 組織体制が整わず、未実施となった。

2. 地域交流・連携・地域参加を進める

①地域共催・協力事業

- 南区の各種機関・団体が行う児童館夏祭り、区民ふれあいまつり、中学校ふれあいトークなどの取り組みへ協力を行った。また、新たに「南区かえっこバザール」へスタッフ派遣運営協力を行った。
- 「京都ARU」など南区内育成団体と共催喫茶を実施した。

②地域関係機関・団体連携

- 地域及び行政関係への各種会合に出席し、地域力の向上に向けた取り組みに協力した。
- 児童館・小学校とともに、地域における子ども・若者の見守りについて意見交換の場を持った。

③地域交流事業 フリーマーケット(自主)

- 地域住民・市民を対象とし、センターに触れてもらう機会として4回実施した。
- 青少年ボランティア・パフォーマンスには年度を通して中学生から社会人まで幅広い参加があった。
- 9月開催分については通算50回目記念し、近隣店舗の協力の下、抽選会や軽食コーナーでのタイアップ企画などを実施、盛大に開催した。

☆④地域交流 子育て世代支援事業

- 育児を担う20代の親を対象に、息抜きや交流ができる場づくりを近隣の市営保育所と試行した。その一環として「フェイスマッサージ」プログラムを実施し、次年度以降につながる関係性づくりを図った。

3. 担い手を育成する

①ボランティア受入れ・育成事業

- 年間を通じ説明会を実施し、中学生から社会人まで幅広い青少年が登録し活動に参加した。
- 多様な年代の青少年が集う場として交流会を実施した。また、個別のふり返りや他センターで開かれた研修会への参加など、スタッフの意欲やスキルを促進させるための取り組みを行った。

②インターンシップ・実習生受入れ

- 夏期インターンシップ、社会教育実習、ユースワーカー養成実習など、計6名の実習生受入れを行い、青少年施設の意義や担い手の役割などについて造詣を深めてもらった。

③支援者育成

- 京都市居宅介護事業連絡協議会との共同主催として、障がいを持つ方の性の理解と支援について深める研修会を実施した。

4. 利用促進・情報発信・広報を進める

①各種広報の実施

- ホームページの定期更新と関連して、各種WEBツール(SNS)を活用した広報展開を実施した。
- 毎月の地域回覧板、市民新聞(区版)や土曜塾を活用し、外部発信につとめた。

②広報物の作成・発行(ニュースレターなど)

- 中高生向けの広報媒体として、「みなみだより」を発行した。
- 新たな試みとして、青少年の様子を掲載した「フォトレターを」11回発行し、地域住民や関係機関へと配布した。作成過程や成果物の閲覧を通じ、利用者とのコミュニケーションツールとしても機能した。

5. 相談・支援に取り組む

①相談・情報提供

- 332件の相談があり、内訳として中学生87件、15～18歳105件、20～24歳86件、25歳～30歳31件、その他23件であった。日頃の関わりから相談につながるケースが多く、学校などの関係機関と協議をする案件も生じた。

②レニアイリョク

- 行政機関の協力を得て、デートDVやHIV/AIDSについての啓発パネル展示などを行った。
- 外部啓発イベントへの協力として、「AIDS文化フォーラムin京都」や京都市の啓発イベントへの運営協力

を行った。

③みなみ中3学習会

- 福祉事務所との連携を密に行い、両担当者間で顔の見える関係を作ることができた。
- 生徒数は前年度よりも増加したが、一方で1対1の関わりを持つだけのボランティア確保が難しく、安定した運営を行いにくい状況が続いた。

行事一覧

事業名	実施期間	回数	参加数(のべ)	備考／実施場所
ロビーワーク	通年、随時		(1461)	
ロビー喫茶	毎週月・木曜日(祝日を除く)	106	(1196)	ボランティア等含む、
自習室・フリータイム	通年・毎日		自習室(1660) フリータイム(3345)	
交流サロン hana cafe	基本月2回、第1、3土曜日	23	(381)	ボランティア・インターン 他含む
20代話せるプログラム	5月以降毎月第3金曜日、 1/30、2/13	13	106(236)	インターン・実習生・ボラ ンティア含む
STEP-UP	通年、基本第1・第3土曜		2(36)	インターン・実習生含む
就労体験事業-アジプロ	①7/7~8/11②9/15~10/2 7③12/11~1/19④2/2~3/9	4ク ール	14(550)	喫茶客、関係講師他を 含む
ボランティア活動「VoM's」~みんな でみなみをもちあげよう~	毎月第4土曜日、 6/22、7/27、8/23、9/21 11/9、12/14、12/20 1/10、2/24、3/14、	21	29(802)	イベント運営時来場者 など含む
みなみ“わくわく”プログラム	卓球大会 毎月第1火曜日 夏プロ7/29、8/2、8/5 minamisonic11/22、3/22 クリスマスサロン 12/20 新年もちつき 1/10		(742)	卓球50 その他692、
ロビーギャラリー	6/21~7/5、11/22~12/6、 3/15~3/30	3	(228)	
青少年共催事業	みかんマルシェ(6/20、21) cumin project夏 (8/21、3/21~3/29) おしのびばとる(7/20)他		(931)	
地域共催・協力事業	京都ARU(月2回 火曜日) ほっとハウス(8/1)	81	(404)	京都ARU(269) ほっとハウス(27) 他
地域交流事業 フリーマーケット(自主)	6/22、9/21、12/14 3/15		(2728)	インターン・ボランティア 別途
地域交流 子育て世代支援事業	2/21		2(10)	
ボランティア受入れ・育成事業	月2回 月曜日に実施		(56)	説明会人数
インターンシップ・実習生受入れ	適宜、希望に応じて受入れ		5	
支援者勉強会	3/16		(35)	多文化地域交流センター
レンアイリョク	通年(随時実施) HIV/AIDS啓発 12月 デートDV啓発 11月、3月		(219)	
みなみ中3学習会	毎週木曜日、12月以降は月曜 日も追加		13(544)	ボランティア含む

伏見青少年活動センター

全体の動向

リニューアルオープンから5年目を迎え、利用者数は前年度より3,761人減少した。それでも、91,383人とリニューアルしてからは20,000人以上の増加であり、地域連携事業やロビー空間を使った他団体との共催イベントなどへの市民参加も増え、さらに認知も広がっている。また、中高生による日常的な自習室利用、育成団体の活動への参加者数が増えたことも大きく反映している。

1. 多文化共生社会を目指した地域課題の解決と、その人材育成

①異文化交流サラダボウル・Project(若者による異文化理解を深めるための事業の企画、運営)

○異文化交流をしたい青少年や留学生、外国にルーツを持つ青少年が中心となり、多文化共生社会の実現を目的に、年間を通じてワークショップや宿泊プログラム等の交流事業や啓発事業を開催。また、地域イベントへの協力を実施した。

②にほんご教室の開催

○日本語を母国語としない人たちへの学習支援活動を行なった。今年度は月曜日と土曜日クラス合わせてボランティアの研修会を行い、スキル向上及び運営体制の共有につながった。また、青少年がリーダーとなり、教室運営に取り組んでおり、学習者のニーズに合わせ、マンツーマンと小グループ指導などの対応ができています。

③多文化啓発プログラム

○多文化共生社会の実現に向けた事業展開を図ることを目指し、若者の多文化共生社会に向けた関心や理解を広げるため、他団体と連携した啓発イベント(NPO 法人タイ教育協会との連携による「日・タイ・カルチャー・フェア」他)を企画実施した。また、気軽に日本人と外国にルーツを持つ人が交流できる国際交流カフェや伏見地域に居住する外国にルーツを持つ方を招き、青少年が異文化に触れるセミナーを開催した。

2. 居場所づくりを支援する

社会適応に困難を感じている若者に安心できる場やプログラムを提供することを意図して取り組みを進めた。

①ちょこっとプログラム

○主に対人関係や社会適応に苦手意識をもっている青少年を対象に、毎月2回、小グループでの交流の場として、雑談やゲーム、料理や軽スポーツなどのプログラムを提供した。参加者の中にはアルバイトやボランティア活動を始める等活動を通して自信を深めて新たなステップを踏み出す姿も見られた。

②縁庭プロジェクト

○昨年に引き続き、区役所1階でカフェをオープンしている“こぼん”に花壇の一部を貸し出し、一緒に水やりをするなど庭の運営に対する協力団体としての連携が得られた。ひきこもりやニートの若者を支援するNPO法人京都ARUとの共催で、3月の手作り市に出店。昨年度作成した新聞紙の鉢植えに、お客さん自ら草木を選び植える創作体験を実施した。

③はじまるさろん(地域若者サポーター伏見ブロックとの共催事業)

○今年度はサポーター研修も含め、伏見区内のB型就労支援施設の利用者やサポーターの家族など、ひきこもり経験や障がいのある当事者を招いて実施した。人前で話す経験は、参加者やサポーターにとっても新鮮で、実際にひきこもりを乗り越えた状況や関わった家族との交流を通して、双方にとって有意義な機会となった。

3. 若者の地域交流・地域連携・地域参加を促進する

青少年と地域社会を結ぶ事業として実施した。

(1)コミュニティスペース事業

①つながりカフェの運営

○ロビーと料理室を活用した多世代交流のためのコミュニティカフェとして、地域のまちづくり団体との連携によるイベント企画や、青少年が運営するカフェの開催、音楽を中心とした持ち込みイベントなどを通して、地域交流、多世代交流の場として機能した。また手づくり市の隔月開催、つな画廊(ロビーギャラリー)での青少年や地域団体の活動発信の場を提供した。

(2)地域パートナーシップ事業:地域のさまざまな団体や個人と協働した青年の地域参画事業

①健康フィエスタ

NPO法人CHARM、保健センター等と共催し、在住外国人のための健康フェアを実施した。

○今年で5回目を迎え、来場者、検査数が昨年度に比べて増加した。また、外国にルーツをもつ方々に実行委員会に入ってもらうことで、細かい案内表示ができたり、外国籍住民への周知に協力してもらうことができ、これまでよりもより具体的なアプローチが展開できた。

②ママのためのリフレッシュカレッジ

育児に対する不安やストレスの発散，地域人材の活用と空き部屋活用を目指して実施した。

- 乳幼児の母親を対象にリフレッシュできる機会としてものづくり・料理等様々なワークショップを単発や継続で開催した。親子参加のプログラムなども増やし，子育て中の仲間づくりの機会にもなっている。また夏には「はのんの会」との共催の乳幼児をもつ親支援ワークショップの開催。大学生などによる託児体験も，夏から春にかけて継続的に提供することができた。

③伏見まるごと博物館

- まちの魅力の発見（「発見の達人」事業）として，メンバーが「まちの語りのホスト役（お迎え役）」となって進め，まちを新たな視点で再発見した。メンバーが企画立案やゲストとの交渉をすることで，まちを記録するためのスキルアップを図るとともに，活動を通して得られた伏見の個性を記録していくアーカイブ事業も進めた。

4. 担い手を育成する

- ボランティアやスタッフとしての参画を通して，多文化共生や居場所づくり支援に関わる青少年の担い手としての育成を行った。
- 地域交流・連携事業を通して，地域における若者を巡る課題を理解し，その成長のための地域づくりに協力してくれる地域人材の育成につながる動きが少しずつではあるが進めることができた。

5. 利用促進・情報発信・広報をすすめる

人と情報が集まり，様々な活動が生まれるような協働での情報発信の場づくりを目指した。

(1) 情報発信事業

①ふしみんメディアパブ事業

- 情報を正しく見極め活用する「メディアリテラシー」をテーマにセミナーを開催。同時に初心者でも分かりやすい，情報の取捨選択と活用を体験するワークショップを通して，青少年のメディアリテラシー「力」向上を図ることができ，さらに，一般市民との交流の場ともなった。また，映像撮影協力などを通じた地域活動に青少年が参画する機会も提供できた。
- ふしみんUSTREAMスタジオの運営（ロビーの一角に設置した動画スタジオの運営）

②インフォメーションノート“ふしみん”の発行（年間3回発行）

- 青少年ボランティアが，ページ内容の構成，取材，編集作業などを行った。地域での青少年が様々な人に伝えたい情報発信として，取材・編集作業などに取り組んだ。

(2) 気軽に利用できる場の提供

①フリータイム（予約なし，非占有の場を提供し利用者間の交流を促進する。）

- フリータイム利用者から新規交流事業の企画が生まれ，軽スポーツを通じた交流イベント（ごちゃまぜバスケット・卓球）を3回実施。また中会議室のフリータイム利用者が中心となり，自主事業「Break dance」の継続的な開催につながった。

②専用自習室の設置（センター利用へのインテーク事業）

- 複数人で教えあいながら勉強したいという青少年への対応として，下半期より空き部屋を利用したグループ自習室を設置し，ニーズに応えた。また，自習室についても定期テスト前以外にも連日利用する人が増え，特に週末は満席で利用制限時間内での交代をしてもらうことが多くあり，ニーズは高い。

6. 相談・支援事業に取り組む

発達段階，生活環境，個別課題などに応じた移行期支援を行った。

(1) 多様な価値に気づく体験型支援事業

①ロビーアクション

青年期特有の不安や興味を持つ青少年に対し，正確な情報と安心して葛藤できる体験の場を提供した。

- 主に食を通じた青少年からの企画提案などを支援した。中高生がカフェ運営に主体的に行動する機会，地域住民も含めた利用者との交流できる場の提供を行い，他者との出会い，グループ運営についてさらに経験を深めることができる機会ともなった。また，カフェ運営を通してセンターの周知にもつながった。

②中3学習会「STEP」（生活保護世帯の中学生の学習支援）

- 生活保護世帯の中学生の学習支援活動を毎週1回（月からは毎週2回），福祉事務所，BBSとの協働で開催した。参加者全員が希望高校へ進学した。また，昨年度より早い時期（6月）に伏見区の保護課のケース

ワーカー5名を対象に、学習会についてと協会・青少年活動センターについての研修会、ボランティアとの意見交換を行い、連携を深めた。

(2) 就労へのイメージを持てるような機会の提供

① サポートステーション職業ふれあい事業

○未就労の青年を対象に、調理から接客、配膳などカフェ運営を通して就労イメージを形成する体験事業を毎月2回開催。協力者からの調理指導、接客、カフェ運営する中で多世代間交流を通して参加者の自信となる機会が提供ができた。

行事一覧

事業名	実施時期		回数	参加数(のべ)	実施場所／備考
にほんご教室／月曜クラス	通年		40	(148)	内、ボランティア168人
にほんご教室／土曜クラス	通年		39	(382)	内、ボランティア344人
ボランティア説明会, 研修, 交流会	通年	※	6	(98)	(登録者数38人)
サラダボウルProject	通年	※	66	(654)	ウェルカムパーティー, 宿泊, スポーツ, フェスタ, 内ボランティア登録者数21人
多文化啓発プロジェクト			9	(40)	国際交流カフェ, セミナー延べ人数
日・タイ・カルチャーフェア			7	(1305)	来場者(965人)・スタッフ・事前会議含む
ちょこっとプログラム(居場所事業)	通年	※	22	21(189)	ボランティア含む
縁庭プロジェクト(居場所事業)	通年	※	98	2(107)	交流会, 日々の水やり等含む
ロビーアクション	8月～3月	※	23	(240)	掲示板利用人数含まず／中高生向け事業／セクシャルヘルス事業／ロビーワーカー養成等含む
STEP(中3学習支援)	通年	※	66	11(446)	学習支援ボランティア数含む
フリータイム	通年		293	(4282)	中会議室及びスポーツルームA
自習室開放事業	通年		527	(7582)	グループ自習室含む
職業ふれあい事業	通年	※	50	6(684)	カフェ来客数含む
つながりCafe	通年		51	(1170)	出店者・来客含む(仕込日含む)
手づくり市	隔月第2日曜		6	(802)	出店者・来客含む
つな画廊(ロビーギャラリー)	5月～3月		123	(1324)	
ふしみんメディアパブ	通年	※	88	(138)	ワークショップ・定期番組配信他
伏見の祭りプロジェクト	8月～11月	※	6	1(10)	参加者は大学生
健康フィエスタ	5月～1月	※	8	(268)	スタッフ会議含む
ママのためのリフレッシュカレッジ	7月～3月		56	(752)	内、ボランティア登録数9人, 延べ57人
ノーバディーズパーフェクト	8月～9月		10	15(302)	内、ボランティア登録数13人, 延べ46人
伏見まるごと博物館	通年	※	28	17(257)	イベント来場者含む
地域若者サポーター共催事業	10月～3月	※	7	(42)	

※印・・・回数・人数にボランティアミーティングを含む。参加者数欄の()は、延べ人数

V. 収益等事業

京都市内を中心として活動する、市民団体・地域団体・企業等に青少年活動センターを活動場所として利用していただいた。

一般利用数 40,370人(施設利用数の約11%)